

2022年1月17日

## 第26回 福祉工学カフェ 開催報告

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）及び国立障害者リハビリテーションセンター研究所は、2021年12月17日（金）に第26回福祉工学カフェを開催いたしました。

福祉工学カフェは、障害のある方の就労、余暇活動を含む様々な生活場면을支援する福祉機器の存在が不可欠であるものの、福祉機器が他の一般的な機器よりも効率的な実用化が進まず、なかなか普及しないというジレンマから、福祉機器ユーザーの方々と研究・開発に携わる方々の情報共有の機会を提供するイベントです。

福祉工学カフェを開始して12年目となる2021年度は、2019年10月に開催した第22回福祉工学カフェで重度の障害のある子どもがいらっしゃる当事者ご家族の方々からニーズやアイデアを伺い、住宅改修等に関わる事業者及び福祉機器メーカーの方々と議論を深めた結果も参考にさせていただきながら、当研究所が開発した当事者ご家族がご自宅内の排泄環境を整備するための自己点検ができるようアセスメントツールをテーマにいたしました。このアセスメントツールは、障害のある子どもの成長を促すには、子供の成長や発達に合わせて適時・適切な環境を整えることが必要だが、障害のある子どもの住環境整備に関する認知度があまり高くなく、情報が少ないという課題から開発されました。

本イベントでは、最初にアセスメントツールに関する説明を行い、その後当事者（ユーザー）及び支援する専門家の方々から皆様のご経験談等を伺った後で、事業者及びメーカーの方々からお話を伺いました。後半では、ご登壇者の方々にパネラーとしてご参加いただき、ご来場の方々とともに総合ディスカッションを行いました。イベントには、当事者ご家族の方、支援する専門家の方及び事業者及びメーカーの方等にご来場いただきました。ご来場いただきました皆様、どうもありがとうございました。

総合ディスカッションのトピックスの一部をご紹介します。

### 【障害のある子どもにとってトイレを経験することも大切】

理学療法士の方からは、子どもにとってトイレを経験することは排泄することだけが目的ではなく、様々な事を発見する場であり、学習の場であると考えている。知識として知っているトイレと経験したことのあるトイレでは、その後の学習内容（排泄以外も含めて）も変わってくる。トイレを経験するタイミングは子どもの成長発達を待つだけでなく、環境が先に変わることで子どもが変わってくる場合もあるというお話がありました。

**【排泄環境を整備することで、リハビリも変わること】**

理学療法士の方からは、例えばきれいに立つことだけがリハビリの目的ではなく、今の生活に必要な機能が目的となる場合もある。子どもによってはちょっと立ってられることも目指す選択肢の1つであり、ご本人や保護者の皆さんはどういうことをしたいか、具体的な希望を理学療法士や業者さん等に伝えることが大事というお話がありました。また、ご来場者の事業者様からもリフォームをセラピスト（理学療法士等のリハビリの専門職）と一緒に考えることでリハビリのやり方も変わり、リハビリも日常生活動作に近づいていくと良いというお話もありました。さらに、当事者のご家族からも、実際に排泄環境を整える際には、セラピストに使いたいもの、やりたいこと及び姿勢の要望を伝えていたことをお話されていました。

**【排泄環境を整備する前にシミュレーションをすること】**

当事者、当事者ご家族、支援する専門家及び事業者様が共通してお話されていたのは、排泄環境を整備する前に実際に利用することを想定してシミュレーションすることの大切さです。今ある環境を活かしながら障害のある子どもが使いやすいと感じるような使いこなし方の工夫ができるか検討することや、住宅改修等を行った後で、思い通りにはならなかったということにならないように、事前に改修後に実現したいことを市販の製品や強化段ボール等を組み合わせてシミュレーションすること等のお話がありました。

<アセスメントツールに関する問い合わせ先>

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 障害工学研究部  
流動研究員 植田 瑞昌  
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地  
TEL：04-2995-3100（内線：2569）  
FAX：04-2995-3132